

専修学校専門課程（専門学校）から大学編入の現状と課題

一 東京における調査より 一

長 須 正 明

(東京都立工芸高等学校)

【要旨】

1998(平成10)年6月の学校教育法(第82条の10)と関連規則等の一部改正により専修学校専門課程卒業生の四年制大学3年次編入が可能になった。本研究は制度発足後2年が経過した今、その実態はどのようになっているのか、どのような問題があるのかを2000年秋に東京で実施した質問紙調査から考察するものである。調査の主な結果は、大学に編入学を希望する卒業生に書類を作成した実績があるのは回答した専門学校の45%で学校としては希望する卒業生がいればそれに応じて対処するところが多い、編入希望者は最近2年間の卒業生が約30%を占めるが、10年以上前の卒業生も約33%いる、等である。生涯学習・生涯教育の一つの制度として徐々にではあるが広がりを見せていることが結果から分かる。問題は学習時間を単位に換算する点にあり、専門学校からの申請単位数と大学での認定単位数には大きな開きがある。

1. 問題と目的

1998(平成10)年6月の学校教育法(第82条の10)と関連規則の一部改正により、専修学校専門課程(以下、専門学校と表記)卒業生の大学編入が可能になった。これは前年12月の文部省・大学審議会答申にある「専門学校のうち一定の基準を満たす専門学校を卒業した者の大学への編入学を認めるべきである」という趣旨をくんだ一連の流れに沿ったものである。専修学校卒業生に対して4年制大学への編入学資格を付与することは、ある意味では専修学校教育の振興方策の一つであり、長年の課題でもあった。例えば東京都専修学校振興方策懇話会(1978年5月16日設立)は、1979年10月23日に「専修学校の振興方策に関する展望と提言」を発表したが、その中には「二年の専門課程卒業生に(大学)学部三年への編入資格を付与する」内容がすでに見える。

今回の制度改正は、具体的には以下の法令を根拠にしている。

① 学校教育法第82条の10

専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部大臣の定める基準を満たすものに限る)を修了した者(第56条に規定する者に限る)は、文部大臣の定めるところにより、大学に編入学することができる。

② 学校教育法施行規則第77条の8

学校教育法第82条の10に規定する文部大臣の定める基準は、次のとおりとする。

- (1) 修業年限が2年以上であること。
- (2) 課程の修了に必要な総授業時数が別に定める授業時数以上であること。

2 前項の基準を満たす専修学校の専門課程を修了した者は、編入学しようとする大

学の定めるところにより、当該大学の修業年限から、修了した専修学校の専門課程における修業年限に相当する年数以下の期間を控除した期間を在学すべき期間として、当該大学に編入学することができる。ただし、在学すべき期間は、1年を下ってはならない。

③ 文部省告示第125号（平成10年8月14日）

学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第77条の8第1項第2号の規定に基づき、専修学校の専門課程を修了した者が大学へ編入学できる専修学校の専門課程の総授業時数を次のように定める。

課程の修了に必要な総授業時数が1700時間以上であること。

また、「学校教育法等の改正に伴う文部省運用通知」では、「改正法制定の趣旨」として「来るべき21世紀において、一人一人がそれぞれの個性や創造性を伸ばし、我が国が活力ある社会として発展していくためには、学校教育制度について、できる限り一人一人の能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じた多様で柔軟なものとなるよう改革を図っていく必要がある。このような観点から、高等教育の段階においても制度の弾力化を図ることが求められており、専修学校の専門課程で文部大臣の定める基準を満たすものを修了した者が大学に編入学できることとするため、学校教育法（昭和22年法律第26号）の所用の改正を行ったものである。」と記している。そして、「これらの改正については、平成11年4月1日から施行すること（改正法及び改正施行規則付則）」、「基準を満たす専門課程の修了者であれば、改正法の施行以前に修了した者についても編入学の対象となる。（留意事項(1)）」としている。この「遡及規定」は生涯教育において重要な意味をもち、今回の改正法の大きな特徴にもなっている。

このような法改正を受けて、実際に専門学校卒業者に対する編入学試験が実施され、1999(平成11)年度から専門学校卒業者が4年制大学3年次(場合によっては2年次)に編入学している。文部省(1999, 2000)によれば、1999(平成11)年度に専門学校卒業者に対する編入学試験を実施した大学は国立9校(国立大学全体に対する実施率9.1%, 以下同様)、公立2校(実施率3.3%), 私立80校(実施率18.0%), 合わせて91校(実施率15.1%)であった。学生数でみると、国立大学には15人、公立大学には0人、私立大学には475人、合わせて490人が編入学した。このほかに放送大学に4月入学・10月入学あわせて4,454人が編入学しているので、この年度の専門学校卒業の資格での4年制大学編入者は4,944人である。2000(平成12)年度には編入学試験実施大学はさらに増加し、国立46校(実施率46.5%), 公立15校(実施率22.7%), 私立215校(実施率47.0%), あわせて276校(実施率44.3%)に1,136人(国立123人、公立27人、私立986人)が編入学した。また、放送大学への編入学者も前年度を上回ると見られることから、この編入学の制度は、少しずつではあるが認知され広がりを見せてきているといえそうである。

本研究は、発足後2年を経過した「専修学校専門課程から大学への編入学制度」について、筆者らが行っている調査に基づいて現状と課題を報告するものである。

2. 方 法

東京都専門学校各種学校協会および専門学校進学指導研究会加盟の専門学校のうち133

校を対象に質問紙調査を実施した。調査全体および質問紙の設計は筆者、実施主体は専門学校進学指導研究会・研究調査委員会、調査実施時期は2000年10月17日から11月6日である。調査は、専門学校進学指導研究会事務局から各専門学校の校長・教務担当者宛に郵便で調査票を発送して、原則としてファクシミリで返信してもらう形式で実施した。調査票は学校調査（2000年度4年制大学2年次または3年次編入希望者の有無＝編入学のための単位取得証明書・卒業証明書等の書類の発行実績、前年度と比較した増減、編入制度利用者についての今後の展望、学校としての対処の方向）と大学編入学を希望した卒業生の属性調査の2つの部分から構成されている。回収された調査票は77校（回収率57.9%）、大学編入学を希望した卒業生数は275人で、全て分析に使用した。

3. 結果と考察

(1) 学校調査

2000(平成12)年度、編入学試験を受験する卒業生のために書類（とくに成績証明書）を発行したかどうかを(表1)に示した。全体の約45%の専門学校で卒業生から請求があり書類を発行している。分野・系統別にみると工業分野の学校でその割合が高い。

表1 4年制大学編入のための書類作成実績の有無

分野\書類作成	あり	なし	合計
工業	14(77.8)	4(22.2)	18(100.0)
医療	1(33.3)	2(66.7)	3(100.0)
衛生	2(13.3)	13(86.7)	15(100.0)
商業実務	8(40.0)	12(60.0)	20(100.0)
服飾・家政	3(60.0)	2(40.0)	5(100.0)
文化・教養	7(43.8)	9(56.3)	16(100.0)
合計	35(45.5)	42(54.5)	77(100.0)

*表中の数字は学校数（以下表4まで同じ）

表2 大学3年次編入希望者の増減(前年度との対比)

分野\増減	増加	変化なし	減少	わからない	合計
工業	9(52.9)	2(11.8)	2(11.8)	4(23.5)	17(100.0)
医療	1(50.0)	1(50.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(100.0)
衛生	0(0.0)	5(38.5)	0(0.0)	8(61.5)	13(100.0)
商業実務	3(15.0)	8(40.0)	2(10.0)	7(35.0)	20(100.0)
服飾・家政	2(50.0)	1(25.0)	0(0.0)	1(25.0)	4(100.0)
文化・教養	7(46.7)	3(20.0)	1(6.7)	4(26.7)	15(100.0)
合計	22(31.0)	20(28.2)	5(7.0)	24(33.8)	71(100.0)

表3 今後の大学3年次編入希望者の増減予測

分野\増減	増加	変化なし	減少	わからない	合計
工業	4(22.2)	9(50.0)	0(0.0)	5(27.8)	18(100.0)
医療	1(33.3)	1(33.3)	0(0.0)	1(33.3)	3(100.0)
衛生	1(6.7)	4(26.7)	0(0.0)	10(66.7)	15(100.0)
商業実務	3(15.8)	9(47.4)	1(5.3)	6(31.6)	19(100.0)
服飾・家政	1(20.0)	2(40.0)	0(0.0)	2(40.0)	5(100.0)
文化・教養	6(40.0)	5(33.3)	0(0.0)	4(26.7)	15(100.0)
合計	16(21.3)	30(40.0)	1(1.3)	28(37.3)	75(100.0)

前年度と比較した増減を(表2)に、また今後の編入学希望者の増減予測を(表3)に示した。前年度と比較した増減に関しては、全体としてみると「増加」、「変化なし」、「わ

からない」がほぼ1/3ずつで、減少した学校は少ない。実際に書類を作成・発行した学校だけで見れば約60%が「増加」している。増加している割合が高いのは工業分野であり、大学の学部・学科との接続が比較的に見えやすいことが要因になっていると思われる。「わからない」が多い背景には、とくに衛生分野（理容・美容系、栄養・調理系）に顕著にみられるように、半数近くの学校で2年間に編入学試験を受験した卒業生がいない状況があると思われる。今後の編入学希望者の増減予測については、全体としてみれば「変化なし」（40.0%）、「わからない」（37.3%）と見ている学校が多く、「増加する」と見ているのは16校（21.3%）にすぎない。「増加する」予測は文化・教養分野でその割合が高い。

このような状況において専門学校は大学編入学の制度をどのようにとらえ、それを希望する卒業生にどのように対処しようとしているのだろうか。それを整理したのが〈表4〉である。

表4 4年制大学3年次編入を希望する卒業生にどのように対処するか

分野\対処	学校として積極的に支援	希望があればそれに応じて対処	なんともいえない	合計
工業	4(22.2)	14(77.8)	0(0.0)	18(100.0)
医療	1(33.3)	2(66.7)	0(0.0)	3(100.0)
衛生	1(6.7)	8(53.3)	6(40.0)	15(100.0)
商業実務	3(15.8)	16(76.2)	2(9.5)	21(100.0)
服飾・家政	1(20.0)	3(60.0)	1(20.0)	5(100.0)
文化・教養	1(5.9)	14(82.4)	2(11.8)	17(100.0)
合計	11(13.9)	57(72.2)	11(13.9)	79(100.0)

編入学制度を利用しようとする卒業生に対しては、「学校として積極的に支援する」とする学校は少なく（13.9%）、「希望があればそれに応じて対処する」とする学校が大部分である。それぞれの対処方針の代表的な意見を自由記述からみている。

《学校として積極的に支援する》

◎専門学校で取得した単位を活かして、大学への編入が可能になったことは学生側の選択の幅が広がった意味でとても良いことだと思う。（工業系／編入実績あり）

◎就職以外の進路として、従来大学、他専門学校等への進学がありましたが、学生にとっては実社会へ出るまでの年数や経済的負担はかなりのものでありました。大学への編入の道が開かれた事は大変素晴らしいことだと思います。（工業系／編入実績あり）

《希望があればそれに応じて対処する》

◇専門学校の本来の目的からすると、就職指導を第一に優先すべきだと考えます。しかし本校のような学校でも入学者自身の目的は多様になっており、専門学校自体の性質は変化しています。そういったことでは卒業後の選択肢が増えることで大学編入制度は良いことだと思います。現状では、本校では編入試験が受けられる大学の資料が閲覧できるようにしていますが、興味を持つ学生は少なからずいるものの、実行する学生はいません。また、大学等を卒業してから専門学校へ入学して来る者の数が増えており、今後の編入希望者が増えるとは言い難いところです。（工業系／編入実績なし）

◇編入制度がより広く浸透すれば、何がなんでも大学進学という考え方から、まず、専門学校で専門的な知識・技術を身に付け、さらに大学において教養を身につけようと

考える学生が増えてくるのではないか。大学を出ても就職が困難な時代、専門学校で学んだ専門技術が就職試験における切り札になるのではないかと考えます。大学を断念して専門学校へ入学してきた学生にとっても励みとなる良い制度だと思います。

(工業系／編入実績あり)

- ◇40代からの申請者や、専門学校認可以前の問い合わせが多いことから、生涯学習への関心の高さがうかがえます。勉強は個人次第とはいえ、学生の関心の高い切り口を用いるなど学びやすいカリキュラムの整備を望みます。(服飾家政系／編入実績あり)
- ◇進路の複線化として、また生涯学習の観点から編入制度を充実拡大して欲しい。学校・教員の意識改革が必要であるが、編入を前提とした専門課程のカリキュラムを充実させ、専門学校と短大・大学のカリキュラムの一元化をめざした話合いの場を作ると良い。編入者枠の増大、専門学校からの推薦入学制度の充実が必要。(商業実務系／編入実績なし)
- ◇専門学校が高等教育機関のひとつとして完全に位置付けられたことは喜ばしいが、専門学校は大学(1条校)の予備校ではなく、実務教育の場所であることは忘れてはならないと思う。(商業実務系／編入実績あり)

《なんともいえない》

△美容専門学校の場合、国家資格取得が目的であり、4年制大学編入というケースはまれであると考えます。(理美容系／編入実績なし)

△広く一般に周知された制度ではない。専門学校を卒業してさらにキャリアアップの為進学する学生もおり、わかりやすい広報が必要に思う。(商業実務系／編入実績あり)

学校調査からは、大学編入学の情報が卒業生に十分に伝わっているとはいえない状況がうかがえる。編入実績に関しても分野・系統による差が大きく、制度をどのようにとらえ、対処するかもまちまちで、現在のところは個別に対応している状況であるといえる。

(2) 卒業生調査

今回の卒業生調査の対象者は275人で、そのうち78人が放送大学への編入学を希望していた。放送大学以外の大学への編入学を希望していた者は185人である。編入学志望者は必ずしも入学者とは限らないが、2000年度の専門学校卒の資格による大学編入学者は1,136人であるから、その17%程度にあたる者の調査データであることになり、ある程度の状況は反映されていると考えられる。大学への編入学を希望した専門学校卒業生の属性を〈表5-1〉から〈表5-6〉に示した。

表5-1 4年制大学編入希望者の属性(1):修業年限

分野\修業年限	2年制	3年制	4年制	合計
工業	141 (89.8)	16(10.2)	0 (0.0)	157(100.0)
医療	1 (16.7)	5(83.3)	0 (0.0)	6(100.0)
衛生	3 (75.0)	1(25.0)	0 (0.0)	4(100.0)
商業実務	38 (86.4)	4(9.1)	2 (4.5)	44(100.0)
服飾・家政	14(100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14(100.0)
文化・教養	43 (86.0)	3(6.0)	4 (8.0)	50(100.0)
合計	240(87.3)	29(10.5)	6 (2.2)	275(100.0)

表5-2 4年制大学編入希望者の属性(2):性別

分野\性別	男性	女性	合計
工業	124(79.0)	33(21.0)	157(100.0)
医療	3(50.0)	3(50.0)	6(100.0)
衛生	0(0.0)	4(100.0)	4(100.0)
商業実務	18(40.9)	26(59.1)	44(100.0)
服飾・家政	2(14.3)	12(85.7)	14(100.0)
文化・教養	17(34.0)	33(66.0)	50(100.0)
合計	164(59.6)	111(40.4)	275(100.0)

表5-3 4年制大学編入希望者の属性(3):卒業年度

分野\卒業年度	1980年以前	1981~1985	1986~1990	1991~1995	1996~1998	1999	合計
工業	6(3.8)	13(8.3)	28(17.8)	36(22.9)	20(12.7)	54(34.4)	57(100.0)
医療	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	6(100.0)	6(100.0)
衛生	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	4(100.0)	4(100.0)
商業実務	0(0.0)	5(11.4)	10(22.7)	21(47.7)	3(6.8)	4(9.1)	44(100.0)
服飾・家政	5(35.7)	2(14.3)	4(28.6)	2(14.3)	0(0.0)	1(7.1)	14(100.0)
文化・教養	2(4.0)	6(12.0)	8(16.0)	12(24.0)	5(10.0)	14(28.0)	50(100.0)
合計	14(5.1)	26(9.5)	50(18.2)	71(25.8)	28(10.2)	81(29.5)	275(100.0)

表5-4 4年制大学編入希望者の属性(4):申請単位数

分野\申請単位数	50単位以下	51~62単位	63~80単位	81~100単位	101単位以上	合計
工業	2(1.6)	6(4.8)	12(9.6)	50(40.0)	55(44.0)	125(100.0)
医療	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(100.0)	5(100.0)
衛生	0(0.0)	1(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(100.0)
商業実務	0(0.0)	4(18.2)	3(13.6)	0(0.0)	15(68.2)	22(100.0)
服飾・家政	0(0.0)	4(33.3)	4(33.3)	2(16.7)	2(16.7)	12(100.0)
文化・教養	2(6.9)	8(27.6)	3(10.3)	4(13.8)	12(41.4)	29(100.0)
合計	4(2.1)	23(11.9)	22(11.3)	56(28.9)	89(45.9)	194(100.0)

表5-5 4年制大学編入希望者の属性(5):希望の課程

分野\課程	通学制課程	通信制課程	不明・未記入	合計
工業	46(29.3)	107(68.2)	4(2.5)	157(100.0)
医療	4(66.7)	1(16.7)	1(16.7)	6(100.0)
衛生	3(75.0)	1(25.0)	0(0.0)	4(100.0)
商業実務	4(9.1)	39(88.6)	1(2.3)	44(100.0)
服飾・家政	1(7.1)	12(85.7)	1(7.1)	14(100.0)
文化・教養	15(30.0)	32(64.0)	3(6.0)	50(100.0)
合計	73(26.5)	192(69.8)	10(3.6)	275(100.0)

表5-6 4年制大学編入希望者の属性(6):卒業学科と希望学科の一致

分野\学科の一致	一致している学科	関連がある学科	関連のない学科	教養学科	不明・未記入	合計
工業	39(24.8)	37(23.6)	30(19.1)	45(28.7)	6(3.8)	157(100.0)
医療	4(66.7)	0(0.0)	0(0.0)	1(16.7)	1(16.7)	6(100.0)
衛生	3(75.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(25.0)	0(0.0)	4(100.0)
商業実務	17(38.6)	11(25.0)	2(4.5)	13(29.5)	1(2.3)	44(100.0)
服飾・家政	2(14.3)	0(0.0)	4(28.6)	7(50.0)	1(7.1)	14(100.0)
文化・教養	21(42.0)	10(20.0)	5(10.0)	11(22.0)	3(6.0)	50(100.0)
合計	86(31.3)	58(21.1)	41(14.9)	78(28.4)	12(4.4)	275(100.0)

専門学校卒の大学編入学希望者は、ほとんどが2年制課程の専門学校卒業生である。これは専修学校の専門課程が2年制中心であるためである。その結果として大学3年次編入には最も効率的であることになり、この制度の趣旨はその点ではいかされているといえる。分野別にみると医療分野で3年制課程の卒業生の割合が高い。医療系の卒業生はほとんど3年制看護学校の卒業であり、この層は以前からそのキャリア形成上、大学で学ぶことが多かった層である。従来は大学1年次から入学して全ての課程を履修しなければならなかったが、編入によって3年次からの入学が可能になり、入学後の履修がきつい等の問題はあっても、とくに学習する内容の共通性と発展性にみられる接続関係と時間的・経済的効率の点でこの制度が生かされていると考えられる。

性別にみると男性と女性の比率はほぼ6:4になっている。工業分野では男性の比率が高く、服飾・家政分野では女性の比率が高い。これは、実際の専門学校に在籍している（在籍していた）学生の性別割合を反映したものであると考えられる。

卒業年度は最新の1999年度（2000年3月）の卒業生が最も多く、以下1991～1995年、1986～1990年の順になっている。とくに工業系、文化教養系の大学と共通する学科からの編入学希望が目立つ。卒業後10年以上の者も30%以上あり、大学で学ぶ目的は多様であるにしても、生涯学習の場を広げるという意味ではこの制度が生かされているといえる。

専門学校卒業生の入学年次の決定と認定単位数は大学の専決事項である。単位の換算と認定に関しては、時間制（専門学校）と単位制（大学）という根本的に異なる制度と教育課程の編成に由来する問題がある。専門学校での学習時間を単位に換算するにあたっては、座学と実習それぞれに換算の基準があり、それに従って専門学校で単位への換算の作業を行う。言うまでもなく専門学校は実習が中心であり、実習は時間がくればそこで終わるといった性質のものではないことも多い。そのためどうしても学習時間数は多くなる傾向がある。実際に〈表5-4〉にみられるように、専門学校で換算した申請単位数は101単位以上が最も多く（45.9%）、63～100単位がそれに次いでいる。ただし、これはあくまで申請単位数であって、それが全て認められるわけではない。認定される単位数は、たとえば放送大学では2年制課程卒業生の場合62単位が基本である。また放送大学以外の大学では、本研究の補足的ヒアリングによれば、50～62単位程度を認定しているところが多いようである。申請単位数と実際に認定される単位数との間にかなりの差があるとすれば、時間制（専門学校）を単位制（大学）に換算する方法、あるいは編入学する学年の検討が必要になるだろう。この問題は単に単位数の認定にとどまらず、専修学校（専門学校）教育と大学教育という目的を異にした高等教育機関同士の接続の問題でもあるので、今後十分な資料を用意した上での検討が求められるのではないだろうか。

希望する課程については「通信制課程」が約70%を占め、「通学制課程」を大きく上回っている。放送大学はもちろんであるが、それ以外についても通信制の課程を希望する人が多いことは、専門学校から大学への編入者の特徴の一つといえるかもしれない。分野別にみると医療系の通学制課程編入希望の割合が高い。逆に商業実務系、服飾家政系は大部分が通信制課程を希望している。

専門学校で学んだ学科と編入を希望する学部・学科の関連については、全体の31.3%が「一致」している。実数が少ないので慎重な検討が必要ではあるが、今回のデータでは「一致した学科」を希望する割合は医療分野と衛生分野の卒業生が高い。医療分野と衛生分野

は業務独占資格も含めて資格との関連が深いため、特に一致する割合が高いのではないだろうか。大学3年次への編入の場合、専門学校で学んだことと編入後、大学で学ぼうとするものの関連の強さによって、単位の認定にも絡む問題が発生する可能性がある。学ぼうとする意欲は重要であるが、大学で学ぶにあたっては何をどのように学ぶかが重要になる。そのときに専門学校で学んだことはどんな意味をもつのか、大学で学ぶこととどのようにつながるのか。結局は大学のシステムの中でそれが問われることになるのである。

4. 総括と今後の課題

本研究では、専門学校卒業者の4年制大学編入について、東京における調査データに基づいて現状を報告した。専門学校から4年制大学への編入制度の問題は、職業教育（専門学校教育）と教養・学問教育（大学教育）の接続の問題である。生涯学習・生涯教育の視点からは多様な「学び」の可能性を保障するという意味での接続が重視されるだろう。しかし、専門学校と大学は本来目的を異にした教育機関である。大学に編入を希望する卒業生に対して、多くの専門学校が現在のところ「希望があればそれに応じた対応をする」として、必ずしも積極的にこの制度を推進、利用する方向を打ち出しているわけではない。それは、この制度が「専門学校」としてのアイデンティティや専門学校教育の目的をあらためて問うものでもあるからである。この点では大学も同じ問題を提示されているはずであるが、この制度においては専門学校と大学が同じ立場に置かれているとは言いがたいので、少なくとも現在のところは大学では深刻な問題とは認識されていないようである。

専門学校で換算した申請単位数と大学での認定単位数の相違に関わる問題は、専門学校教育と大学教育の接続を考える上でとくに重要である。今回の調査ではそれぞれの単位数に差があることを指摘するにとどまったが、今後可能な限り実際の認定単位数を把握してこの問題を継続して追究したい。それによって専門学校と大学それぞれの特質が明らかになり、接続と連携の可能性も見えてくると思われる。

また、専門学校で学んだことと大学で学ぼうとすることが一致していたり関連が深い場合はともかく、あまり関連があるとはいえない場合、「新規入学（1年次からの入学）」ではなく「編入学」することはどのような意味をもつのか。時間的・経済的効率以外に「編入学」でなければならない理由はあるのか。「生涯を通じて学ぶこと」の意味と意義からさらに検討する必要がある。

今後も継続して研究をすすめ、今年も学校調査と卒業生調査を行う予定である。そこでは、従来から現実としてあったものの一般には注目されることの少なかった「大学（短大を含む）から専門学校への接続」、すなわち今回とりあげた大学編入制度とは逆の接続関係の問題に注目するつもりである。

〈参考・引用文献〉

- 1) 文部省大臣官房調査統計企画課 『学校基本調査 平成11年度版』, 文部省, 1999.
- 2) 文部省大臣官房調査統計企画課 『学校基本調査 平成12年度版』, 文部省, 2000.
- 3) 東京都専修学校各種学校協会編 『専修学校・各種学校の歩み』(東専各協設立30周年記念誌), 社団法人東京都専修学校各種学校協会, 1992.
- 4) 全私学新聞 平成12年11月23日号.